



副代表幹事
中国委員会 委員長
伊東 信一郎
ANA ホールディングス
取締役社長

Contents

■特集1	
2020年 東京オリンピック・パラリンピック開催へ向けて	02
■特集2	
全国経済同友会震災復興部会と経済同友会震災復興委員会による宮城県視察	10
■Close-up 提言	
改革推進プラットフォーム 企業・経済法制PT 提言 秋池 玲子 委員長	17
流通・取引慣行ガイドラインを見直しイノベーションの促進を	
■Doyukai Report	
被災地出張授業 「高校生の今、考えておくべきこと やっておくべきこと」 遠藤 勝裕 学校と経営者の交流活動推進委員会 副委員長 教育改革委員会 副委員長 (日本学生支援機構 理事長)	19
「日本赤十字社」活動報告会 「企業との協力でWin-Winの関係を」 近衛 忠輝 氏 日本赤十字社 社長、国際赤十字・赤新月社連盟 会長	21
■Seminar	
第1243回 会員セミナー 「iPS細胞がつくる新しい医学」 山中 伸弥 氏 京都大学 iPS細胞研究所 (CIRA) 所長・教授	22
■Column	
巻頭言 伊東 信一郎 「釣り」と地域振興	01
リレートーク 中村 克己 「Respect each other」	09
福島に“ほんとの空”が戻る日まで ～福島大学FUREの挑戦～ 佐藤 彰彦 氏 「原発避難の現実と『不理解』そしてその解消へ」	23
私の思い出写真館 小林 喜光 「カリフォルニアの青い空(サンタ・バーバラ)」	26
新入会員紹介	24
産業懇談会の紹介	25

「釣り」と地域振興

「釣りに行く暇がない」と周りには言っているのだが、実際は年に数回ほど行っている。基本は東京近辺だが、まれに遠出して離島に足を延ばすこともある。「釣りの魅力は」とよく聞かれるが、私の場合は、自然相手に見えない水中をイメージしながら仕掛けや餌、釣り方などを試行錯誤することがまず楽しく、そこにアタリがくればさらに楽しい。まさに「してやった」となる。よく釣りをマーケティングに例える人がいるが、まったく同感で、工夫してお目当ての成果につながったときの喜びこそが、釣りの醍醐味だと思ふ。そして、釣った魚を自ら料理して酒の肴とするのもまた、最高の喜びである。さらに、釣りを通じて自然を感じ、環境保全の大切さを学ぶことも、大いに意義がある。

四方を海に囲まれ、豊かな水と河川、水辺に恵まれた日本において、釣りは古くから生活に密着し、独自の釣法や道具が進化してきた。縄張りの習性を利用し、おとり鮎に体当たりしてくる野鮎を釣る友釣りなど、世界に類を見ない独特の釣法も多い。また、炭素繊維などの新素材を取り入れ、精巧かつ機能性と芸術性を兼ね備えた日本の釣具は、世界の釣り人を魅了し続けている。

このように伝統と技術の融合により、華々しく進化を遂げてきた日本の釣りだが、『レジャー白書2014』(日本生産性本部)によると、2013年の釣り人口は770万人であり、2010年から170万人も減少している。趣味の多様化や少子・高齢化、東日本大震災の影響などもあると思うが、日本の釣りが衰退の危機に瀕しているのではないかと、一抹の不安を感じざるを得ない。

最近では、釣りを地域振興に活用しようとする取り組みが各地で盛んになってきた。一言に「釣り」といっても、手軽な堤防釣りから本格的な磯釣り、溪流釣りなどさまざまあるわけだが、釣り客を呼び込むために環境整備やツアー企画などを行い、観光振興につなげようという取り組みである。こうした自然を再評価して観光資源としての価値を高める動きは、マラソンやサイクリングなどにも見られるが、少しでも地方経済の活性化に寄与すれば何よりである。またさらに、釣りが訪日観光や和食ブームとも連動し、日本人のみならず世界から観光客を呼び込む起爆剤になるのではないかと、ひそかに期待している。言葉の問題などのハードルもあるが、多様で奥深い普段着の日本を知っていただくことこそ、これからの日本の観光のあるべき姿なのかもしれない。

今月の表紙:世界の文様シリーズ

【ノルウェー・伝統編み】

ステッチ柄でよく見られ、200年の歴史がある、「オーテブラッド・ローゼ」柄の発展形です。スウェーデンからノルウェーに伝わりました。